

## 第6回 「次世代の観光立国実現に向けた観光財源のあり方検討会」 議事概要

日時：平成29年10月31日（火）13:00-14:20

場所：中央合同庁舎2号館16階総合政策局国際会議室

委員：山内委員（座長）、秋池委員、アトキンソン委員、大橋委員、富田委員、中空委員、林委員、吉村委員

### ■ とりまとめ（案）についての各委員からの主な意見は以下のとおり。

#### ・観光財源の確保の必要性について

とりまとめのはじめに「観光立国」を謳うことが重要との意見があったほか、世界の観光が継続的・安定的に成長する中で観光の重要性が増しているというグローバルな背景を盛り込むべきという意見や、将来にわたって持続可能な国際観光立国を目指す上で、出入国への課税を軸とした観光財源が必要という点は納得感があり記載すべきとの意見があった。

また、観光立国が国民にもメリットがあることを肌で感じられるよう、増大する観光客と地域住民の生活環境との共存という課題に対しても便益が実感できる社会を目指すための観光財源という点も考慮すべきとの意見もあった。

国内への受益については、観光立国としての我が国のブランドが高まることで、国内のビジネスにもメリットがある点をふまえるべきとの意見があった一方、国内の人が受益していることをどのように記載するのかについてはさらに研究が必要との意見もあった。

訪日外国人への受益については、必要とされる情報が手に入りやすくなるなどの需要者目線での書き方にすべきとの意見があった。

#### ・観光財源の確保策について

使途については、何にいくら使われるのかをより具体的に記載すべきとの意見があった一方、将来的な観光施策の変化や技術革新に対応できるよう幅を持たせるべきとの意見もあった。

一方、財源が負担者の納得感のあるものに支出される仕組みを措置する必要性についても言及すべきとの意見があった。

また税方式の場合、広く国民に受益する点をより強調すべきとの意見もあった。

委員からの意見の後、座長から今後の作業については座長一任とし、持ち回りで確認のうえとりまとめを行いたいと提案があり、各委員に了承された。

### ■ とりまとめは、11月中に公表予定として閉会